

## 診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院脳神経血管内治療科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この研究では、亡くなられた方の診療情報も、貴重な情報として、研究対象として扱わせて頂きます。この案内をお読みにになり、ご自身やご家族等がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分やご家族等の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

### 【対象となる方】

2011年1月1日～2023年10月31日の間に、虎の門病院本院脳神経血管内治療科で、虎の門病院と筑波大学附属病院にて海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻と診断された患者さんです。

### 【研究課題名】

海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の自然閉塞と追加治療にかかわる因子の検討

### 【研究の目的・背景】

#### 《目的》

海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の自然閉塞と追加治療にかかわる因子を検証します。

#### 《研究に至る背景》

海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻に対しては経静脈的塞栓術が第一選択です。塞栓の成功率は高く、70-90%程度と言われています。また海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻自体自然に閉塞していくこともあるため、治療後に軽度のシャント残存があったとしても最終的にシャント消失を得られることも少なくありません。しかしながら、その中で追加治療が必要になる症例も確かにあり、どういった症例で追加治療が必要になるのか、どういった症例は自然閉塞が得られるのかについての研究報告は殆どありません。そのため我々は、海綿静脈洞部硬膜動静脈瘻の治療成績の評価と再治療が必要になる因子に関して検討することとしました。

### 【研究期間】

2023年12月25日 ～ 2025年3月31日

### 【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては、特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は、保管責任者である、虎の門病院脳神経血管内治療科 鶴田和太郎のもと研究終了後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・

資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【利用する診療情報】

血液検査データ、CT・MRI・DSA 検査など画像検査データ、診療記録、薬歴、看護記録

【研究代表者】

虎の門病院 脳神経血管内治療科 鶴田 和太郎

【虎の門病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：脳神経血管内治療科 鶴田 和太郎

研究機関の長：院長 門脇 孝

【筑波大学附属病院における研究責任者・研究機関の長】

研究責任者：脳卒中科 松丸 祐司

研究機関の長：原 晃

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族等の診療情報につき、開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。

また、ご自身やご家族等の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2024年3月31日 までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

【利益相反について】

この臨床研究に係る医師が、この臨床研究に関連して特定の利益を受けたり、不利益を受けたりすることはなく、公正性、信頼性は適正に確保しております。

【相談窓口】

虎の門病院 脳神経血管内治療科・宮本智志

電話 03-3588-1111(代表)

筑波大学附属病院 脳卒中科・細尾久幸

電話 029-853-3110(代表)